

いのちの言の葉2009

富山県教育委員会平成21年度いのちのメッセージ発信事業

「命を守る利賀の冬」(社会科)

高岡市立西条小学校4学年児童
平成21年6月13日実施

【いのちの先生】

水上 義行先生

・富山国際大学 子ども育成学部教授

【授業の概要】

- 1 担任の話(「いのちの先生」の紹介)
- 2 いのちの先生の話
 - (1) 利賀村の場所を地図で確認
 - (2) 厳しい利賀村の冬の様子
 - (3) 冬を生き抜く知恵



いのちの授業を参観して

プレゼンテーションソフトや実物資料、地図など子どもたちが興味を引きつけられるものがたくさんありました。豪雪の地での生活は、日常生活そのものがいのちと深くかかわるものであると思いました。

限りあるいのち



いのちの授業を終えて

一番びっくりしたことは、雪が4mも積もるということでした。ぼくには想像できませんでした。でも、そんな雪の中で生き延びるためにいろいろな工夫がしてある道具がありました。例えば、かんじきは雪の上を滑らないように歩く道具でした。苛酷な環境で生き延びるためには、知恵が必要だということ学びました。

大切な友達へ

私たちが今生きていられるのは、一生懸命育ててくれた家族のおかげだから、自分のいのちを大切にしてください。

一人一人一生懸命生きているから、生きているものすべて大切に、みんなと協力し、助け合っていこうね。

家族のみなさんへ

ぼくは、生きているのが当たり前だと思ったけど、この「いのちの授業」を受けると、この限りあるいのちを大切にしようと思いました。

これからはいのちがあるのを当たり前と思わず、みんなと協力し合って生活していこうと思います。

妹へ

自分が生きていることを当たり前と思わないで、これからも毎日明るく生きてください。今の時間を大切に、そして、一緒に生活している家族みんなと協力して、一つしかないいのちを守っていきましょう。

